

# 人文社会科学部・理学部の歩み

## 山形高等学校の誕生

明治初年以來、東京の一高、仙台の二高をはじめとして、8つの「ナンバーズクール」が設置されていましたが、1919年(大正8)の高等教育機関の拡充計画を受けて、高等学校の増設の機運が生まれ、各都市において誘致運動が展開されました。山形においてはこれに先立つこと1917年(大正6)、山形県会において高等学校新設を要望する意見書が議決され、1920年(大正9)政府が山形高等学校の創設を決定しました。

山形高等学校の初代の校長には東京帝国大学理科大学を卒業後、山口高等学校・第六高等学校教授を歴任した三輪田輪三<sup>みわた りんぞう</sup>が就任しました。三輪田は「地霊人傑」(すぐれた土地から素晴らしい人材が世の中に出ること)を座右の銘とし、学校の敷地にも強いこだわりを持っていました。三輪田は「今度新築される学校の敷地は緑の千歳山と<sup>ちとせやま</sup>さかずきやまを背景とし、まことに美しい景勝の地であるので、学生の感化の上ですこぶる好きと思っています。おそらく全国の高等



山形高等学校校舎  
(山形大学附属博物館制作「山形アーカイブ」)

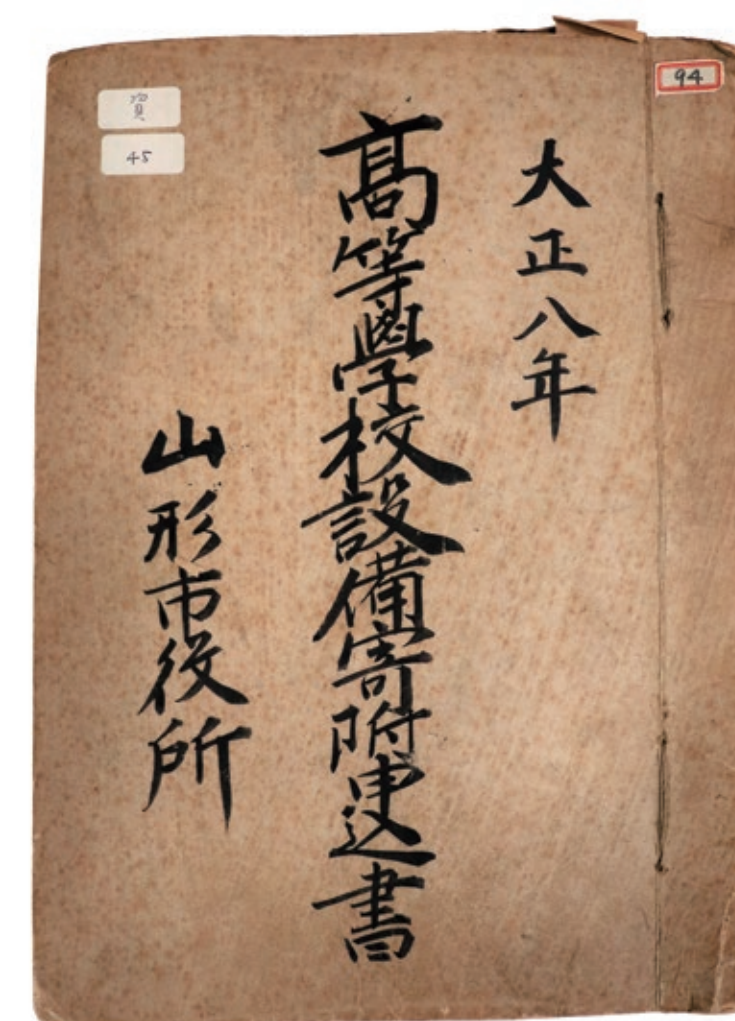
学校中このような好地形に立つ学校は他にないだろうと思います」と述べています。山形高等学校の校歌にも「ひいでたる山のすがた」と謳われています。

山形高等学校は1949年(昭和24)の山形大学創設とともに文理学部となり、1967年(昭和42)には人文学部と理学部に分離されました。人文学部は2017年(平成29)に人文社会科学部へと改組され、現在に至ります。

## 地域とのエピソード

山形高等学校設立にあたっては、山形県会から意見書が提出されたほか、山形県知事・山形市長などの自治体、村山地域の村山同郷会・置賜地域の米沢有為会・庄内地域の庄内館・最上地域の最上義有会などの地域の育英組織から誘致の声があがりました。山形県会議長の高橋勝兵衛<sup>たかはし かつべえ</sup>の意見書には、「我が山形県は近年小学校教育の成果において全国中優秀な地位を占め、県立中等学校の数も11校にのぼり、その成績も大いに見るべきものがある。加えて、土地も教育地として適地であって、高等学校の位置としては理想の土地といっても過言ではない。なにとぞ本県に設置されることを切望するものである」とあります。

また、敷地整備費10万円ほか学校建設に要した資金総額79万5000円のうち、25万円は山形市からの寄付、20万円は県下の資産家有志からの寄付でした。また南村山郡東沢村(現在の山形市小白川町)の学校敷地2万坪も学校建設資金と同様、県からの寄付によるものでした。



「高等学校設備寄附申込書」  
(ふすま同窓会所蔵)

山形アーカイブ実行委員会